



トピックス

林木遺伝資源の配布について

林木育種センター 遺伝資源部 丹藤 修・星 正司

1 はじめに

農林水産業、食品産業などの今後の発展のためには、先端技術の開発とその基盤である生物遺伝資源の確保が必要ですが、我が国の収集・保存している生物遺伝資源が欧米諸国と比べて不十分であること、環境の変化などで、貴重な遺伝資源が滅失してしまう恐れがある等の問題に農林水産省の関係機関が連携して対処するため、農林水産省ジーンバンク事業が昭和60年度に発足しました。平成13年度からは関係する独立行政法人がそれぞれのジーンバンク事業の実施にあっており、独立行政法人林木育種センターでは、林木遺伝資源の総合的な収集、保存、配布を行う林木のジーンバンク事業を実施しています。また、新生物多様性国家戦略は、人類生存の基盤であり、豊かな生活、文化などの基盤でもある生物多様性の保全とその持続可能な利用が目的とされていますが、林木のジーンバンク事業は生物多様性国家戦略に貢献しています。

林木遺伝資源は、木材、木の実、医薬品等として恵みをもたらしてきましたが、試験研究の材料として用いられて科学技術の発展の基盤としての役割も果たしています。科学技術の発展につれて、新たな用途が開発され、生活資材が多様なものになってきています。林木遺伝資源は利用されることによって科学技術の発展や新製品の開発に貢献することができます。

以下に、試験研究用林木遺伝資源の配布について紹介します。

2 配布の対象

林木育種センターでは林木を対象に、育種素材の供給源の確保、希少樹種等の絶滅防止、その他科学研究の材料確保のため、林木遺伝資源の収集・保存を進めています。平成15年度末で、成体で約700種21,200点、種子で約400種6,500点、花粉で約40種1,500点計約29,200点の林木遺伝資源を保存しています(写真-1)。これらのうち、何らかの特性が把握され、数量が十分確保されているものを配布の対

象としています。このため、保有している林木遺伝資源については、利用に資するため、特性評価を進め



写真-1 種子の保存

乾燥、密閉、低温の条件下で保存すると30年以上にわたり保存可能です。写真は種子を乾燥させ、シリカゲルを容器に入れて密封し、-20℃で保存しているものです。

ています。作成した特性表は特性情報のデータベースとしてホームページ (<http://labgt.nftbc.affrc.go.jp/genebank/index.htm>)に掲載しています(図-1)。また、配布対象の林木遺伝資源については、

図-1 ホームページに掲載した特性表

【お知らせ】 林木育種センターでは、林木遺伝資源を試験研究用に種子、花粉、穂木、苗木などで配布しています。厳密に品種・系統が管理されており、皆様の研究材料として最適です。価格は1点あたり消費税込で3,349円です。詳しい内容や入手方法につきましては、本誌裏面に記載のホームページをご覧ください。メールまたは電話でお問い合わせください。

来歴情報及び保存情報のデータベースをホームページに検索が可能な状態で掲載しています(図-2)。

登録番号	種名	遺伝資源の種類	品名等	クローン実生の有
1907120000001	カラマツ	カラマツ材質優良本	材質優良1号	クローン
1907120000002	カラマツ	カラマツ材質優良本	材質優良2号	クローン
1907120000004	カラマツ	カラマツ材質優良本	材質優良4号	クローン
1907120000005	カラマツ	カラマツ材質優良本	材質優良5号	クローン
1907120000006	カラマツ	カラマツ材質優良本	材質優良6号	クローン
1907120000007	カラマツ	カラマツ材質優良本	材質優良7号	クローン

図-2 ホームページに掲載した遺伝資源配布目録
上段の検索画面で検索条件を入力すると、下段の検索結果が得られます。

林木遺伝資源は、表-1のとおり、種子、花粉、穂木、苗木、根及び茎の形で、配布1単位当たり3,349円で配布しています。

種	類	配布単位量
種子	ヤマナラシ、シラカンバ	0.1g
	サワラ、カツラ	0.5g
	ネズコ、ヤシャブシ	1g
	エゾマツ、トウヒ、ヒノキ	2g
	カラマツ、アカエゾマツ、スギ、アスナロ	3g
	トドマツ、アカマツ、ケヤキ、キハダ	5g
	モミ、コウヤマキ、イタヤカエデ	10g
	クリ、ツブラジイ、クヌギ、コナラ、ミズナラ、トチノキ、オニグルミ	30粒
	チョウセンゴヨウ、ブナ、ホオノキ	50粒
	イチイ、クスノキ、ヤチダモ	100粒
花粉		0.5cc
穂木		20本
苗木		5本
茎		5個
根		5個

備考：この表に掲げられていない種類(形態)の林木遺伝資源の配布単位量は、その属する科、属又は種に類似する林木遺伝資源の配布単位量に準じます。

なお、当該試験研究が我が国の森林資源に重大な悪影響を及ぼすおそれがある等の場合は配布できません。また、配布希望数量によっては、数量を制限することがあります。

3 配布に際して

試験研究用林木遺伝資源の配布は、配布規程を設けて、その規程に従って進めています。この中で、試験研究が終了したときには試験研究結果等の報告の提出など、配布申請をされた方をお願いしている事項もあります。

試験研究用林木遺伝資源の配布は遺伝資源部探索収集課が担当しています。配布を希望される方、ご質問のあるなどの方は、本ページ脚注に記載しています電話、FAX又は電子メールにより事前にお問い合わせをお願いします。配布を希望される方には、打ち合わせのうえ、所定の様式による配布申請書を提出していただくことになります。林木育種センターでは、配布申請があれば速やかに林木遺伝資源を配布するよう努めています。

なお、配布申請書の様式をはじめ、必要な様式は、ホームページからダウンロードできます。

5 配布状況

最近の林木遺伝資源の配布状況は、表-2のとおりであり、多様な試験研究にご利用をいただいています。

年度	配布形態	配布件数	系統数
平成13年度	種子	4	10
	穂木	4	45
	苗木	2	8
	計	10	63
平成14年度	種子	12	46
	花粉	4	173
	穂木	2	19
	苗木	1	1
平成15年度	計	19	239
	種子	15	127
	花粉	4	142
	穂木	7	107
	苗木	2	2
平成15年度	計	27(注)	378

(注)平成15年度の配布においては、1件の配布申請で種子と花粉を同時に配布したものがあつたので、各欄を合計したものと計欄の数値とは一致しません。